



北陸地域の概要（2020年9月調査）

地域開発調査部 研究員 吉田聡子

景気の状態判断 9月の4連休が飲食業、観光業等の追い風となりDI値は上昇

現状判断指数(DI)は、家計、企業、雇用すべての動向で上昇し、前月から+9.2ポイントの50.4となった。「一時に比べ、人の往来の増加やイベントの実施など、少しずつではあるが経済活動が戻りつつある。ウィズコロナを意識しながら、様々な面で動きが活発化しているように感じる(新聞社)」という状況で、「週末を中心に観光客が増えている。4連休は特に良く、久しぶりに売上が上がっている(タクシー運転手)」、「9月の大型連休で県内外の消費者が多く動き、駅周辺も徐々ににぎわいを取り戻していた。10月からはGo To Travelキャンペーンが東京も対象になるので、北陸は首都圏からの観光客が増えていくと考える(一般レストラン)」と明るい声があがっている。しかし、「9月の大型連休は久しぶりの人出であったが、若者が圧倒的に多く、年配客はまばらである。財布のひもは固く、人出の割に売上は今一つである(商店街)」と厳しい状況も続いている。

景気の先行き判断 コロナ禍のなか、経済刺激対策への期待から先行きDI値も上昇

3か月先を占う先行き判断指数(DI)は+11.4ポイントの49.6となった。「少しずつではあるが、経済的理由による解約が増えてきている。新型コロナウイルスの状況が変わらなければ、放送、通信サービス共に契約獲得数が大幅に増えることは考えにくい(通信会社)」、「冬にかけても新型コロナウイルス禍の影響がなくなると考えると、景気が良くなるとは考えにくい(家電量販店)」と厳しい声の一方、「Go To Travelキャンペーンで車を利用して旅行する人が多くなり、カー用品やメンテナンス需要に期待している(自動車備品販売店)」、「Go To Travelキャンペーンなどが続けて行われれば、衣料品の購入にもつながるのではないかと期待している(衣料品専門店)」、「各種Go Toキャンペーンへの取り組みや新型コロナウイルス禍のライフスタイル提案を適宜適切に行うことで、消費を喚起できる(その他小売[ショッピングセンター])」と前向きな声もあがっている。

図1 景気の状態指数(DI)の推移[季節調整値]

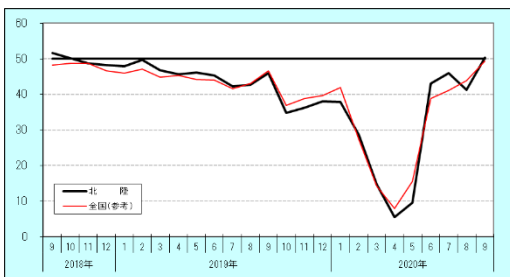
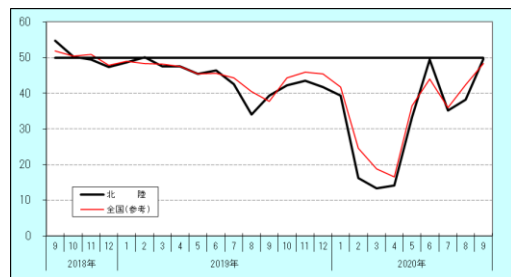


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●9月のアンケート内容

調査期間：2020年9月25～30日

調査対象：合計100名（うち回答者90名）

- (内訳)
- ・家計動向関連
 - ・企業動向関連
 - ・雇用関連

●景気の状態指数(DI)の算出方法

景気の状態や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。